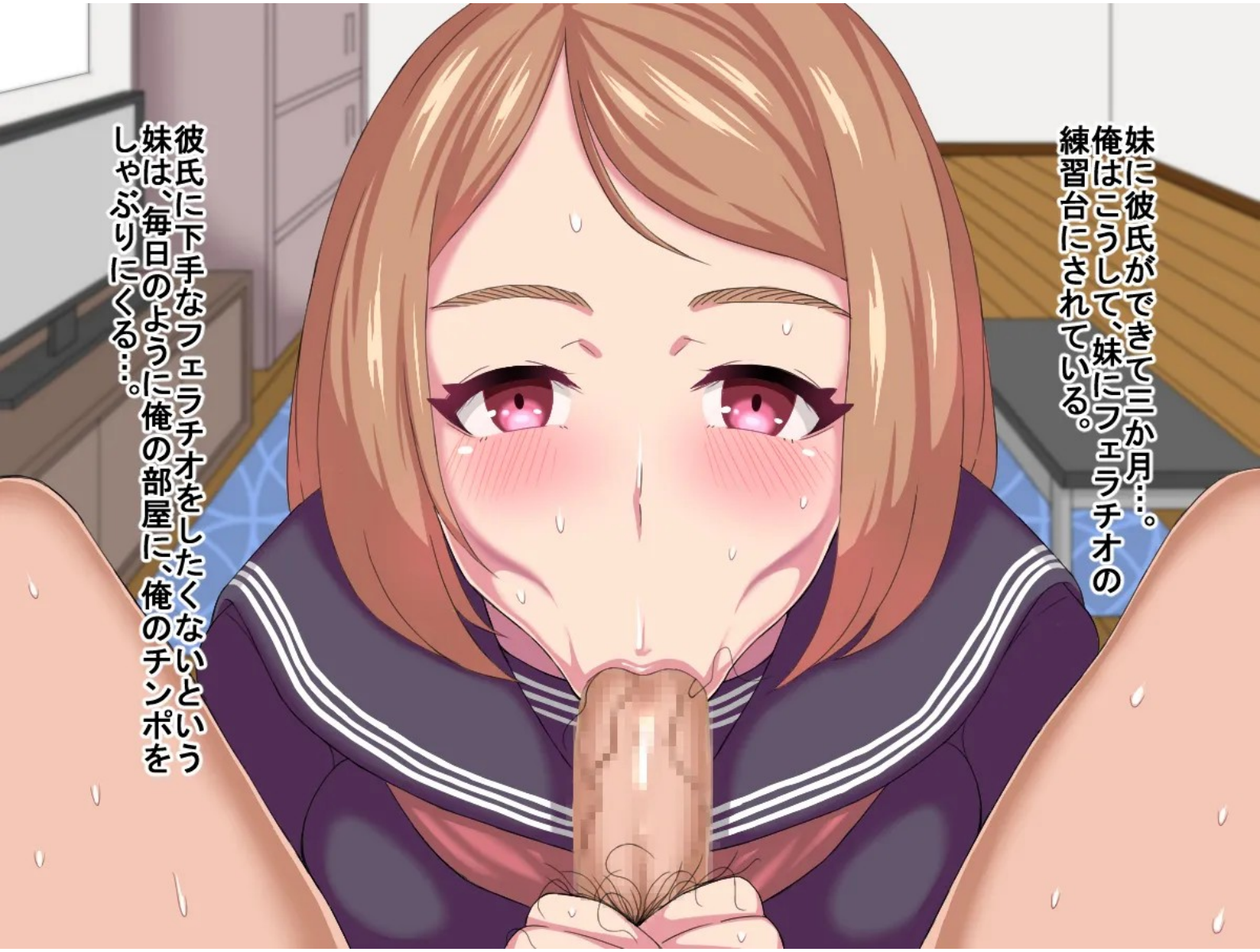
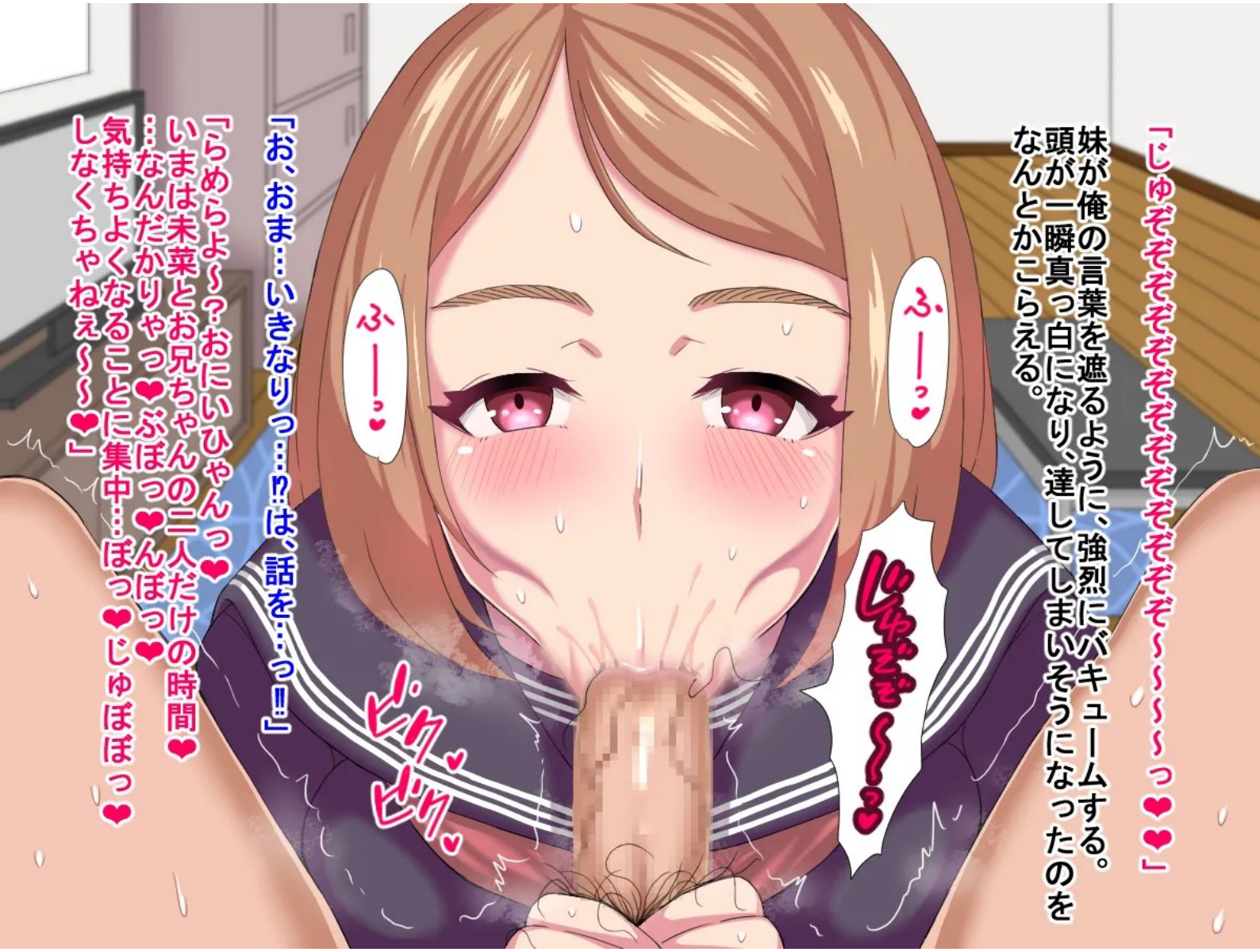
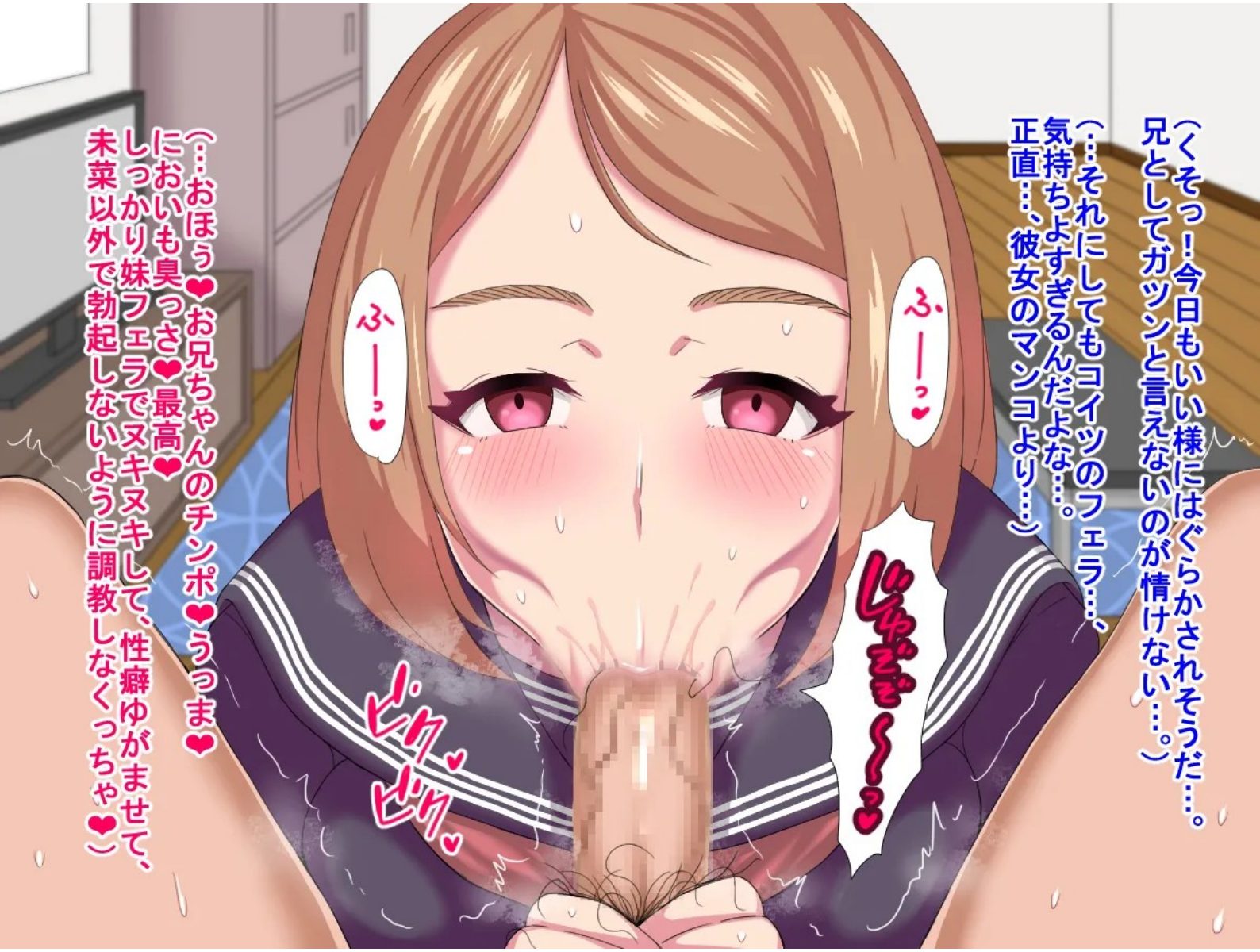
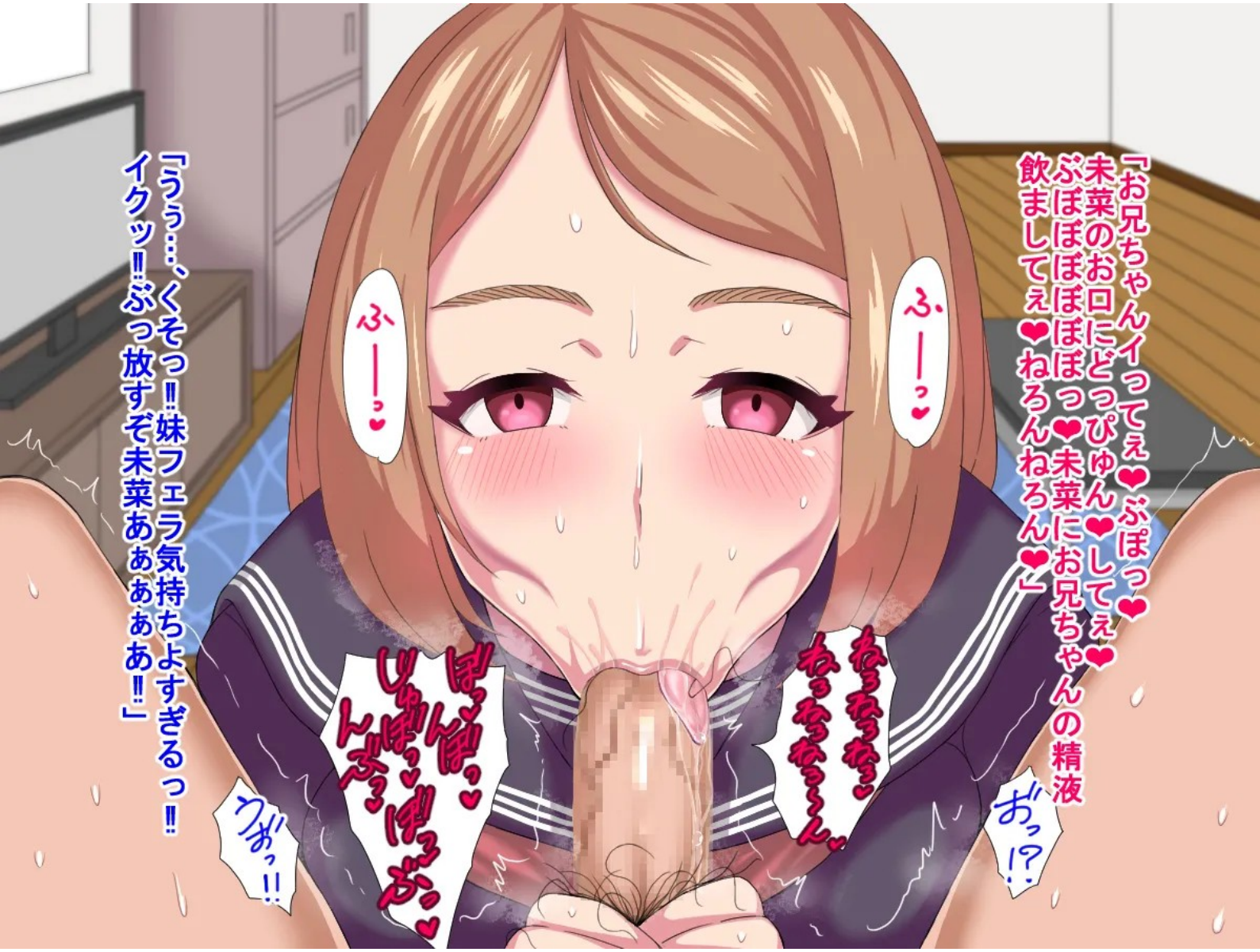

妹に彼氏ができて三か月…。
俺はこうして、妹にフェラチオの
練習台にされている。
彼氏に下手なフェラチオをしたくないという
妹は、毎日のように俺の部屋に、俺のチンポを
しゃぶりにくる…。

「じゅぼっ❤じゅぼぼぼぼっ❤
…どうかな？おにいひゃん❤
未菜少しは上達した？ちゅっ❤」
ふ、――っ❤
ふ――っ❤
ちゃろろろ～っ❤
「あ、…ああ、これなら彼氏も喜ぶんじゃ…ないかな？
だ、だから、こういうことは今日限りで…な？
お、俺も彼女に悪いし…うおっ⁉」


「じゅぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞ～～～～っ❤❤」
妹が俺の言葉を遮るように、強烈にバキュームする。
頭が一瞬真っ白になり、達してしまいそうになったのをなんとかこらえる。
ふ――っ❤
じゅぞぞ～～っ❤
ふ――っ❤
ビクビク❤
「お、おま…いきなりっ…!?は、話を…っ!!」
「らめらよ～？おにいひゃんっ❤いまは未菜とお兄ちゃんの二人だけの時間❤…なんだかりゃっ❤ぶぼっ❤んぼっ❤気持ちよくなることに集中…ぼっ❤じゅぼぼっ❤しなくちゃねぇ～～❤」


（くそっ！今日もいい様にはぐらかされそうだ…。兄としてガツンと言えないのが情けない…。）
（…それにしてもコイツのフェラ…、気持ちよすぎるんだよな…。正直…、彼女のマンコより…）
ふ―っ♥
じゅぞぞ～っ♥
ふ―っ♥
ビク♥ビク♥
（…おほぅ♥お兄ちゃんのチンポ♥うっま♥においも臭っさ♥最高♥しっかり妹フェラでヌキヌキして、性癖ゆがませて、未菜以外で勃起しないように調教しなくっちゃ♥）

妹はスイッチが入ったように俺のチンポを吸いたて、舌を蛇のように這わせる。射精を促すためのラストスパート。唾液の粘膜がより温かさを増し、俺の射精を迎え入れる準備をしている。


「お兄ちゃんイってぇ❤ぷぽっ❤
未菜のお口にどっぴゅん❤してぇ❤
ぶぽぽぽぽぽっ❤未菜にお兄ちゃんの精液
飲ましてぇ❤ねろんねろん❤」
ふ―っ❤
ふ―っ❤
ねろねろ❤
ねろねろ～ん❤
ぽっ❤ぽっ❤
りゅぽっ❤ぽっ❤
んぶっ❤ぽっ❤ぶっ❤
おっ!?
つおっ!!
「うぅ…、くそっ!!妹フェラ気持ちよすぎるっ!!
イクッ!!ぶっ放すぞ未菜あぁぁぁあ!!」